

「環境こだわり米」として栽培したコシヒカリの販売パッケージ＝県提供

環境こだわり米 新装、売り出し

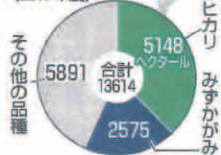


県内の環境こだわり米は、琵琶湖を含む環境や人体に優しいとして、県は認証制度を創設して農家の参画を増やしている。昨年度は一万三千六百十四袋で栽培し、うちコシヒカリが五

県、ブランド統一を目指す

農薬や化学肥料を通常の五割以下に抑えた「環境こだわり米」として、県内で栽培したコシヒカリの販売パッケージが完成した。県が一般のコシヒカリと差別化を図ろうと製作。業者の協力を得て、二〇一九年度から本格的に使用する。新たなパッケージを通して、環境「こだわり米」の認知度も高める狙いだ。(成田高憲)

環境こだわり米の作付け面積の内訳(2017年度)



コシヒカリ 5148ヘクタール
みずかがみ 2575
その他の品種 5891
合計 13614

成年年齢18歳に引き下げへ



民法改正により2022年4月1日に成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることになり

消費者被害の広がり心配

全国的消費生活相談窓口で、未成年者取り消し権を失う20歳を過ぎると、フリーローンやエステ、マルチ商法等に関する相

成年年齢が引き下げられると、18歳、19歳の若者は、親の同意がなくても一人で高額の商品を購入することができることとなる。未成年者であることが理由に契約の取り消しができなくなります。つまり、契約を結ぶかどうかを決めるのも自分ならず、その契約に対して責任を負うのも自分自身となります。全国的消費生活相談窓口で、未成年者取り消し権を失う20歳を過ぎると、フリーローンやエステ、マルチ商法等に関する相

ヘルプライン

ってパッケージがさまざま。これまでは、県認証のシールや印刷でアピールしてきたが、目立たず浸透していなかった。県食のブランド推進課によると、新しいパッケージを普及させ、みずかがみのように統一したい狙いがある。淡緑色の背景に、白色の花々を琵琶湖の形にデザイン。題字の「こしひかり」の上には、「びわ湖にやさしい近江米」とアビ

プラごみで活性炭



プラスチックごみによる海洋汚染が深刻化する中、廃棄プラスチックから通電性がある活性炭を作っている大津市中野のメーカー「大木工芸」に、注目が集まっている。環境にやさしく、しかも従来品より高性能であるとして、国内外の大手企業から依頼が相次ぐ。電気自動車(EV)やエアコンの部品として、活用が期待されている。(作山哲平)

大津の大木工芸



廃棄プラスチックを持つ大木社長(左)、活性炭で作ったフィルター、蓄電池を作る青井教授＝大津市の観谷大瀬田キャンパスで

通電性や消臭性 EV、エアコンへの活用期待

プラスチックは、レジ袋やペットボトル、電化製品などに使われている合成樹脂の総称。加工しやすく腐食しにくい面、自然物に分解されない。リサイクルされなかったプラスチックが海に捨てられ、五割以下に劣化した「マイクロプラスチック(微細プラ)」が、海の生態系に悪影響を与えているとされる。国連は先月二〇二五年までにレジ袋

などの全廃を目指す方針を明らかにした。大木工芸は一九七〇年創業。観谷大などの産官連携で、樹脂や炭素製品を開発している。プラスチックの活用を研究し始めたのは二十年前。十年前ほど前には、プラスチックを蒸し焼きにして炭を作る専用機械を開発した。活性炭は、通電性や消臭能力があり、EVに搭載する蓄電池や、消臭材、断熱材に使える。プラごみから作った炭は、ヤシ殻を焼いた従来品よりも一・八倍表面積が大きく、蓄電や消臭能力で優れているという。乗用のEVの部品ではまだ商品化に至っていないもの

の、電動の重機では、国内で実用化が始まっている。昨夏からは乗用EVへの活用を見据えて、中国の化学関連大手「シノケム」から十億円以上で技術提供を求める依頼があり、交渉中だ。消臭機能がある活性炭入りフィルターとしては、昨夏にパナソニックから依頼があった。新時代の「環境にやさしいエアコン」として、工場から出たプラスチックを使って生産する方法などの検討を進めている。

琵琶湖でも汚染を確認

プラスチックごみによる汚染は、琵琶湖でも報告されている。県が二〇一五年にまとめた琵琶湖沿岸の漂着物調査によると、漂着物の35%がプラスチック類だ。京都大の田中周平准教授(環境工学)らのグループの研究によると、琵琶湖の水中からも微細プラは見つかっている。また琵琶湖で採取した魚のうち、約三割の体内から微細プラが見つかったという。プラスチックは、ポリ塩化ビニル(PVC)など水中の有害物質を吸着しやすいことから、悪影響が懸念されている。民間企業によるプラごみの減量も始まりつつある。大津市におのびわ湖大津プリンスホテルは四月一日から、レストラン、宴会場でプラスチック製のストローを廃止する

長浜の松居さん 連盟会長賞入賞 全国愛鳥ホスター 日本鳥類保護連盟(東京)が主催する二〇一九年度の愛鳥週間用ボスター原画コンクールの小学校の部で、長浜市朝日小六年の松居菜々美さんが、大賞の総裁賞に次ぐ入賞六名のうちの、連盟会長賞を受賞した。県によると、過去十年で県内から入選したことはあるが、入賞は初めて。三部門に、全国から計五万五千六百五十九名の応募があった。小学校の部には三万五千九百七十二名が寄



近江の観音様巡り 木版画集 自主制作 堺の白柳さん